



みーつけた!



豊川閣妙厳寺の山門

豊川閣妙厳寺は、およそ570年前の嘉吉元（1441）年、参州豊川円福の地に創建されたと伝えられる曹洞宗のお寺です。法堂（本堂）には、この寺の本尊千手観世音菩薩を祭り、本殿には鎮守・護法の善神である「豊川吒枳尼眞天（豊川稻荷）」を祭っているため、「豊川稻荷」と呼ばれています。

妙厳寺を参拝するにあたり、総門から鐘楼を右手に見ながら、法堂、本殿へと進む際にくぐるのが山門です。現在境内にある建物は、豊川稻荷信仰の隆盛を背景に、江戸時代末期から戦前ごろにかけて建立されたものが多いのですが、山門は、それより以前の天文5（1536）年に今川義元が寄進したと伝えられ、現存する妙厳寺の建物の中では最も古いといわれています。唯一、本瓦ぶき造りの屋根の形をしており、寛政5（1792）年に修理され、更に昭和29（1954）年にも大修理が行われました。昨年11月には、瓦のふき替えと耐震補強をしています。

また、この山門の左右にある阿吽^{あうん}の仁王像は、昭和41（1966）年に信者の方から寄進されたものです。

